

LOREO 3D 立体マクロレンズ (3D Macro Lens in a Cap)

取扱説明

(レンズを替える時、カメラマニュアルを
ご参照下さい。)



明細事項

型: LA9006

レンズタイプ: 3D (立体) 平行式、全手動

レンズシステム: 38 mm, f11, 二枚玉、プラスチックポリマー複合物。

イメージセンササイズ: ~ (22-24) x (14.5-16) mm APS-C。

絞り: 2-ブレード、3通りセットできます - f11, f16, f22

ピント調整: フォーカスリング

ピント範囲: 23 - 85 cm レンズの前から測った場合。

レンズの付属品: 52mm丸型ねじ込み式軽量付属品、軽量アクセサリ、例えばレンズフィルター、近距離レンズ1-4。

特殊機能: このレンズとデジタル一眼レフカメラで写真を撮ってすぐに3Dで見れます、そして普通のプリントかコンピューターモニターでも見れます。同時に一眼レフカメラのオート機能も使用可。例えばTTLファインダー、オート露出、TTLフラッシュ。

以下のデジタル一眼レフカメラに対応可: Pentax K、キヤノン EOS、ニコン N、ミノルタ AF、ソニー Alpha、サムスン GX (PK)。

1. レンズのインデックスマークとカメラのインデックスマークを合わせてレンズをカメラに取り付けます。
2. このレンズはAPS_Cサイズフレーム一眼レフカメラに対応可能です。(ほとんどはデジタル一眼レフカメラです)フルフレームカメラを使った場合、イメージの外側が切り落とされますが、一部の新しいデジタル一眼レフカメラはこれを自動で行ないます。
3. これは全部マニュアルレンズです。ご使用になる前カメラのオートフォーカス機能を止めて下さい。オート露出機能が作動するはずで、作動しない場合はこれも止めて下さい。

4. カメラにレンズを取り付ける時、水平に保つことがとても大切です。もし水平に保たれていない場合は、1組のイメージは同じ高さにはなりません。
5. 使用方: 最初に絞りを選択して下さい。ピント範囲はレンズの前から測った場合23-85 cmです。
6. このレンズは、多くのカメラと、TTLフラッシュ、絞り優先AE、プログラム(P)撮影モードと対応可。手動で行う場合は露出計を使用して下さい。
7. 3Dマクロレンズは自動絞りがないので、f22を選択した場合、ファインダーのイメージは暗くなります。撮影者はこの様に絞り込みを選ぶことができます。これは写真に悪影響を及ぼすことはありません。
8. 写真を撮影する時は、通常撮

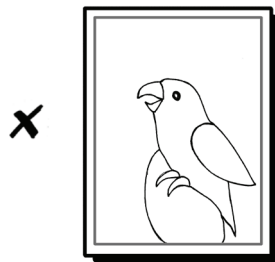
影者はファインダーを見て、ピントを合わせます。まず対象との距離を決めます。ピントを合わせ、そして正確な場所にカメラを定めます。技術が必要ですが、鳥や昆虫などの動く対象物を撮影する時にこの方法が一番最適です。

9. 3D撮影には、絞り込みは大切です。高感度フィルムは小さい絞りを補償します。ISO 200-400は著しい効果があります。
10. すべての対象物にピントが合う状態の距離範囲を被写界深度表示されます。例えば: f11にセットすると、対象物とレンズの距離が30cmの場合、被写界深度は27-33cmです。f22で距離が30cmの場合、被写界深度は23-38cmです。
11. フィルターと近距離レンズなどの52 mm丸型ねじ込み式軽量

付属品に対応可能。ねじ山を傷つけない為に、これらの付属品の選択には充分ご注意ください。

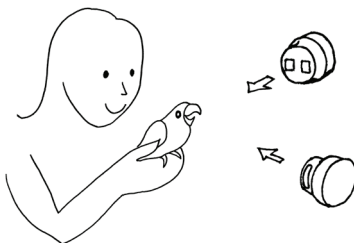
12. 3Dマクロレンズを携帯、保管時に保護するために、フォーカスコントロール機能をロック状態(PARK)に必ずセットして下さい。
13. このレンズで撮影した3D写真は、LOREO 3Dビューアでご覧になるのが最適です。3Dビューアがなくても一部の方には3D効果が見えることもあります。ほとんどの場合は見ることはできません。3Dマクロレンズの一对のステレオイメージは必ずしも一致するとは限りません。一部の3D写真の見方は、正確な左右対称を必要とするので、3Dマクロレンズの写真にこれらの見方はふさわしくありません。

14. 3Dフォトチップ： 従来の写真撮影では、対象物はセンターに持って行きます。光源が撮影者の後方であれば、最高の露出になります。3D写真撮影も同様に行なって下さい。

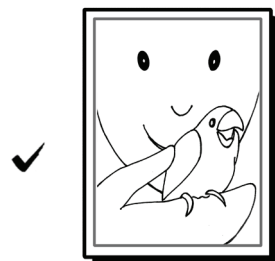


15. 3D 写真撮影は、普通の写真撮影とは異なります。3Dカメラまたはレンズは、対象物の形と背景の深さを記録します。

16. 3D写真は、背景と同じように対象物を表現できます。人物を撮影する時、美しい背景も是非入れて下さい。



17. 重要事項：カメラが常に水平な状態で写真を撮って下さい。少し見上げるか見下ろすかして傾けることも可能です。しかしカメラを縦にして撮影すると3D写真を見ることができません。



18. 現像：各スナップ写真に二枚ずつ写真が撮影されます。現像後

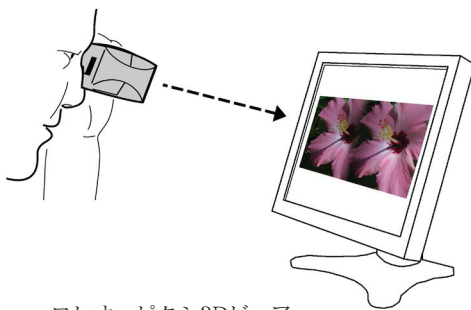
3D効果をすぐに見ることができます。ハガキサイズが最適です (4R - 100 x 148cm)。ハーフサイズ写真ではなく、必ずフルサイズで写真を現像して下さい。

19. 見方：写真をデラックス3Dビューアー（左下の写真）に置いて、レンズから15cm ぐらい離れてご覧下さい。（2、3秒かかる方もいらっしゃいます）。

20. 近視や遠視などの視力の違いによって、3D効果をはっきりご覧下さるために、目からビューアーまでの距離が近くなったり、遠くなったりすることもございます。

21. 光源がビューアーレンズに反射することを避けて下さい。3D写真に自然光が入ることは3D効果に最適です。

22. 友達や家族などと一緒に3D写真をお楽しみ下さい。ライト3Dビューアー（プリントビューアー）とピクシ3Dビューアー（コンピューターモニタービューアー）は折り畳み式なので、封筒に入れることもできます。3D効果を体験するのに時間がかか



ロレオ ピクシ3Dビューアー

る方もいらっしゃいますので、分かる方に教えてもらって下さい。

レンズ保護と注意

1. 少々雨や水滴はレンズの本体に問題ありません。きれいな布で拭いてください。汚れたレンズは、レンズティッシュにレンズクリーナーを湿らせて、きれ

いに拭き取って下さい。レンズクリーナーをレンズに直接使用することは避けて下さい。レンズの表面を傷つけないために乾いた布などでは絶対に拭かないで下さい。

2. ニコン一眼レフカメラは、オートモードの場合、作動しませんので、必ずマニュアルモードに切り替えてからご使用下さい。ソニー一眼レフはレンズマウントチェックを止める必要があります。若干のソニーSLRカメラは、マニュアルモードで使用しなければならないのでご注意下さい。



ロレオ デラックス3Dビューアー